

平成30年10月26日(金) 2校時 下運動場 指導者 的山 直幸

児童支援者 片山 陽介

1 単元名 トップスピードのその先に・・・(陸上運動：ハードル走)

2 単元の見目

ハードル走に積極的に取り組み、自分のめあてに合った練習の仕方を工夫するとともに、運動の行い方を理解し、スムーズにハードルを走り越しながら、ゴールまでより速く走りきることができる。

3 単元の構想

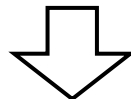
【児童の実態】

本学年は、男子15名、女子17名、計32名で課題に対して前向きに取り組む児童が多い。男女の仲が良く、協力して課題解決に向かうことができるようになってきた。今年度の「水泳運動」では、「追究の手がかり」をもとに友達の動きをよく見て、互いにアドバイスすることで課題解決していく姿も見られるようになってきた。そして、課題解決しようと取り組んだ成果を「ラストアタック」で発揮し、友達や自分のこれまでの記録と競い合うことで、より自分の成長の実感を得られている様子も見られた。しかしその一方で、より自分に適した練習の場や段階、運動の行い方を選んだり、試行錯誤したことを伝え合ったりすることが苦手な児童が見られた。

児童はこれまでに、中学年の「走・跳の運動」では、段ボール箱やミニハードルを直線や曲線などの多様なコースの中で走り越す運動に取り組んだ。しかし、児童によって走力の差が大きく開いているため、競走意欲がもちにくかったり、走る意欲を保つことができにくかったりした。また、本単元では高さのあるハードルに初めて出会うため、走ることへの苦手意識やハードルにぶつかることへの恐怖心をもっている児童もいることが想定されるので、まずは、易しい場で「より速くハードルを走り越すことがおもしろい」という体験をさせることが必要と考える。

【運動のおもしろさの捉え方】

「ハードルを走り越しながら、いかに速くゴールまで走りきることができるかどうか」がおもしろさであると捉える。本単元では、いかにハードルをトップスピードで走り越し、そのままスピードを落とさずに走りきることができるかを工夫し、自分の記録に挑戦するおもしろさを味わわせたい。



「課題に迫るために、めあてをもち、夢中になって学び続ける子どもの育成」を目指して

挑戦課題：ハードルを走り越しながら、いかに速くゴールまで走りきることができるかどうか。

【問いと学びの姿】

問い どうすればハードルをトップスピードで走り越すことができるかな？

→ ハードル1台の場で、スタートから1台目までの「歩幅、歩数」や走り越す「スピード」「姿勢」などを工夫している姿。

問い どうすればハードルの台数が増えても、スピードを落とさずに走りきることができるかな？

→ ハードル3～5台の場で、走り越し方やハードル間の走り方を、「歩幅、歩数」や「位置」などの追究のための手がかりをもとに工夫している姿。

【単元構成の工夫】

「ハードルを走り越しながら、いかに速く走りきることができるかどうか」ということに、常に夢中になる児童の姿をイメージして授業を考えた。単元の前半では、ハードルをトップスピードで走り越すための体の使い方を工夫する。その後、ハードルの台数を増やしていくことで、途中で止まったり、スピードが落ちたりする児童が出てくることが予想される。そこで、「スピードを落とさずに走りきる」という問いを出すことで、ハードル間の走り方に着目して解決できるようにしていく。

4 運動のおもしろさを広げるための支援の工夫

○ 「自己」とのかかわりから

- ・ 追究のための手がかりとして「スピード・歩幅・歩数・姿勢・位置・スムーズ」を共有することで、児童の追究のための手がかりとし、課題解決に迫ることができるようにする。
- ・ 自分の技能を高めるために、必要に応じてケンステップやマーカーなどを使用できるようにする。
- ・ 試行錯誤が停滞してきた際に模範的なハードル走の映像を見せることで、より速くゴールするための体の使い方に気付くことができるようにする。
- ・ 振り返りシートに毎時間の成果と次の時間に取り組みたいめあてを書き込むようにすることで、自己のめあてを明確にすることができるようにする。
- ・ タブレット型端末で撮影した自分の試技の映像を見ることで、自分の感覚と実際の動きとの違いに気付き、新しいめあてをもつことができるようにする。

○ 「仲間」とのかかわりから

- ・ グループで活動し、めあてをもとに互いの動きを見てアドバイスする場を設定することで、より速くゴールするための友達の考えや取組を認め、自分に取り入れることができるようにする。

○ 「もの」とのかかわりから

- ・ 子どもの実態に応じて、高さの低いハードルを用意したり、バーの部分が開く仕組みのハードル（フレキハードル）を用意したりすることで、ハードルへの恐怖心を軽減し、安心して活動に取り組むことができるようにする。
- ・ スタート音と決められた長さの音楽を一定間隔で流すことで、曲が終わった瞬間の自分の位置を確認し、記録の伸びを実感することができるようにする。
- ・ 対面式のコースの場を準備しておくことで、競走を通してより速く走りきるという意識をもち続けることができるようにする。

5 評価規準

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
目標	ハードル走の行い方を理解し、ハードルを走り越しながら、ゴールまでより速く走りきることができる。	自分に適しためあてに気付く、練習の場や段階、運動の行い方を選ぶとともに、工夫したことを伝え合っている。	運動に積極的に取り組み、約束を守ったり、仲間の考えや取組を認めたりしようとしている。
評価規準	ア 踏み切りや着地の位置、姿勢を手がかりに、ハードルをスムーズに走り越すことができる。 イ ハードル間の自分に合った歩幅、歩数を知り、最後までより速く走りきることができる。	カ 自分のめあてに適した場や運動の行い方を選んでいる。 キ スmoothにハードルを走り越すために考えたことを伝えている。	サ 場や用具の安全に気を配り、積極的にハードル走に取り組もうとしている。 シ 友達の考えや取組を認め、助け合おうとしている。